取組と目標に対する自己評価シート

年度	平成 30 年度

前期（中間見直し）

実施内容
・第１クールは５月から８月までで８回実施し、参加者は６人だった。 ・第２クールは 11 月から２月までで８回を予定しており、参加者は７人。 ・第１クールの初回と最終回に認知症のスクリーニング検査（Me－ＣＤＴ）を実施した結果、改善したのは５人だった。
自己評価結果
・各クール８人の参加を予定していたが第１クールは６人、第２クールは７人となってしまった。事業の周知方法等について検討する必要がある。 ・認知症のスクリーニング検査（Me－ＣＤＴ）の結果、５人が改善したので回想法事業の効果はあった。
課題と対応策
・参加者を増やすため、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所と連携し、認知機能の低下があると思われる人に事業の PR をしていく必要がある。 ・継続的に参加することでより効果があると思われるので、第８回目が終わるときに次回の案内をしているが、継続して参加している人から「マンネリ化している」という意見があった。来年度以降は新しいテーマを検討し、参加意欲が低下しないようにする必要がある。

後期（実績評価）

実施内容
・前期は５月から８月までで８回実施し、参加者は６人だった。 ・後期は 11 月から２月までで８回実施し、参加者は当初７人で実施したが、最終的には５人での実施となった。 ・前期の初回と最終回に認知症のスクリーニング検査（Me－ＣＤＴ）を実施した結果、改善したのは５人だった。前期後期を通して会の雰囲気は良く、スタッフと参加者のバランスも取れており、会話のフォローや話題の展開も適切に実施されていた。
自己評価結果
・各クール８人の参加を予定していたが第１クールは６人、第２クールは５人となってしまった。事業の周知方法や開催方法等について検討する必要がある。 ・認知症のスクリーニング検査（Me－ＣＤＴ）の結果、５人が改善したので回想法事業の効果はあったと考えられる。
課題と対応策

・参加者を増やすため、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所と連携し、認知機能の低下があると思われる人に事業の PR をしていく必要がある。市内の老人クラブ等に出張サービスでの開催を行う等の検討を進める。
・継続参加者からの「マンネリ化している」という意見に対応していくため、事業の開催場所や開催方法等の検討を進める必要がある。令和元年度においても、前期後期ともに各８回での実施を計画している。